

授業科目名： 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント	教員の免許状取得のための 必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：吉村春美 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	学校が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1)日本におけるカリキュラム・マネジメントに関する理解を深める。</p> <p>(2)世界的な教育の動向、「主体的で対話的で深い学び」の参考となる、海外のカリキュラム実践事例について理解を深める。</p> <p>(3)日本におけるカリキュラム実践事例研究を通じて、カリキュラム開発やカリキュラム・マネジメントにおけるポイントを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本におけるカリキュラム・マネジメントに関する政策的・理論的背景を学ぶとともに、世界的な教育の動向、海外のカリキュラム実践事例や日本におけるカリキュラム実践事例研究を通じて、各人がカリキュラム開発やカリキュラム・マネジメントを実践する際の指針となるポイントを整理することを目指す。授業は講義形式だけでなく、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングの手法も用いて実施する。</p>			
<p>授業計画 ※SC：スクーリング</p> <p>第1回：日本におけるカリキュラム・マネジメントとは（政策的理解）</p> <p>第2回：日本におけるカリキュラム・マネジメントとは（理論的理解）</p> <p>第3回：日本におけるカリキュラム・マネジメントの事例 1</p>			

第4回：日本におけるカリキュラム・マネジメントの事例 2

第5回：事例研究 1（研究対象の設定、事前調査）

第6回：カリキュラム・マネジメントの推進（SC）

第7回：世界的な教育動向、「主体的で対話的で深い学び」の参考となる、海外のカリキュラム実践事例（SC）

第8回：カリキュラム・マネジメントの実践的課題（SC）

第9回：事例研究 1：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例（SC）

第10回：事例研究 1：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例（SC）

第11回：事例研究 2（事例調査）：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例

第12回：事例研究 2（分析・考察）：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例

第13回：事例研究 2（分析・考察）：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例

第14回：事例研究 2（レポート作成）：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例

第15回：事例研究 2（レポート作成）：日本におけるカリキュラム・マネジメント実践事例

なお、受講生は、受講を決定後すみやかに、講師とコンタクトをとり、「受講動機・本講座から学びたいこと」を A4 1枚以内でまとめ、提出すること。

定期試験

講師連絡先：h_yoshimura@kyosei.seisa.ac.jp

※メールでのコンタクトができない場合は事務局に相談のこと。

また、スクーリング前に、第5回の実例研究 1（研究対象の設定、事前調査）を完了していることが、スクーリング参加の前提となるので留意のこと。

・レポート：スクーリング後に以下の2点を提出する。

（1）事例研究レポート：第5回で設定した事例研究テーマに基づき、スクーリングでまとめた事例研究を完成させたもの

（2）事例研究計画書：さらに研究したい事例を1つ選定し、事例研究計画書をまとめる（フォーマットについては講師より説明がある）

・科目修得試験（レポート方式）：スクーリング後に作成した事例研究計画書に基づき、事例調査を行い、その結果をレポートとしてまとめる。スクーリング内で行った事例も含めて考察すること。

スクーリングでの学修内容

・第1回～4回の内容の総括およびカリキュラム・マネジメントの推進と実践的課題についての講義（第6・8回）

・「主体的で対話的で深い学び」の参考となる、海外のカリキュラム実践事例についての講義（第7回）

・第5回で選定した事例研究対象について、事例研究を行い、発表する（第9・10回）

・授業は講義形式だけでなく、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングの手法も用いて実施する。

教科書：以下の URL からダウンロードできない場合は講師にコンタクトをとること

（1）文部科学省 教育課程企画特別部会（2015）『教育課程企画特別部会における論点整理について（報

告）』, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm

(2) ベネッセコーポレーション (2017) 『VIEW21 教育委員会版 『今から考えるカリキュラム・マネジメント

ト』, https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/VIEW21_kyo_2016_04_all.pdf

(3) ベネッセコーポレーション (2017) 『VIEW21 教育委員会版 学校現場と進めるカリキュラム・マネジメント

ト』, https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/VIEW21_kyo_2019_01_ALL.pdf

(4) OECD (2019) 『OECD FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS 2030 Conceptual learning framework A SERIES OF CONCEPT NOTE』,

http://www.oecd.org/education/2030-project/contact/OECD_Learning_Compass_2030_Concept_Note_Series.pdf

(5) 未来教育会議実行委員会 (2018) 『未来教育会議人一生の育ちのレポート』 (特に p.14-43) <https://miraikk.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/12/60cf28123602201ffa0d325ea44a3262-1.pdf>

参考文献

(1) 田村知子編著 (2011) 『実践・カリキュラムマネジメント』 ぎょうせい

(2) 田村学 (2017) 『カリキュラム・マネジメント入門』 東洋館出版社

学生に対する評価

レポート評価 (25%)、スクーリング評価 (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する。